

曹洞宗青年会 かわら版

平成21年10月27日
山口県曹洞宗青年会
会長 大野 泰生

各地域で床上浸水・床下浸水など
が広範囲にわたり
起こりました。

被災地の現状を

視察したところ、テ

「平成二十一年七月中国・

九州北部豪雨」報告

七月二十一日に県内各地で、集中豪

雨による土石流災害が発生しました。被
災された県内寺院、そして檀信徒や一

般の皆様に心よりお見舞い申し上げま
す。

また、この災害復興に様々な形でご協
力いただきまし

た皆様に御礼
申し上げます。

ご存じの通り、

防府市・佐波

川流域を中心
に起つた土砂

崩れ、山口市
を中心とした

広範囲な断水
をはじめ、県内



レビ・ラジオで想像していたよりもひどい
状況で、苦しんでいる人たちのために少
しでもお手伝いをしたいと、現地で活動
することを決めました。

お盆の直前でしたので、1週間という
短期の活動となりましたが、そんな忙し
い時期にもかかわらず多くの正会員・O
B会員の方々に参加いただき活動をする
ことができました。

具体的には、防府市の社会福祉協議
会を中心に臨時に立ち上がった「防府
市・佐波川流域災害ボランティアセンタ
ー」に登録し、そこから現地のニーズの応
じ、堆積した土砂の撤去等お手伝すると
いうものです。

また、お盆檀務と平行してできる中長
期の活動として、全国の曹洞宗関係の団
体に向けて義捐金の呼びかけ、中国地方
の寺院へ掃除用のタオル提供のお願いを
しました。過去に被災された方々をはじ
め多くの方に協力を頂きました。

防府では被災者が市営住宅に避難し
たり、山口防府間の道路が復旧したり、
被災した老人ホームが再開されるなど、
最悪の状態は終息したようです。現地ボ
ランティアセンターに何度も足を運びま
したが現在のところ私たちが直接お手伝
いできることはないとのことで、活動は一
区切りという状況ですが、被災された
方々がこれまでと同じような生活に一
日も早く戻ることを願ってやみません。

義捐金報告

県内外の御寺院様、全国各地の曹洞宗
青年会様より、総額648,484円もの
義捐金をいただきました。

募金先

防府市災害対策本部

防府市佐波川流域災害ボランティ
アセンター

：348,484円

山口市

：200,000円

義捐金・活動支援金の受付は終了させ
て頂きました。

《タオル提供報告》

山口市社会福祉協議会より「家屋内の土砂の撤去作業後の清掃に必要なタオルが不足している爲、新しいタオルの提供をお願いしたい。」との要請があり、左記の通り支援活動をいたしました。

期間：七月三十日～八月三十一日

支援物資：新しいタオル

依頼対象：中国地方各県の寺院様
枚数：三、二一八枚

宗務庁や大本山永平寺をはじめ中国地方各地の御寺院様・青年会より提供いただきました。タオルは山口県社会福祉協議会に届けさせていただきました。

蛇足ですが、活動することを早い段階で決意し表明したこと、そして諸団体と連絡体制を確立し、リアルタイムで情報のやりとりをしたことが理想的な災害の対応モデルだと、SVA・全曹青からとも評価されました。

●県曹青のホームページページ上のブログを通じ、活動状況や連絡事項などを逐一発信しました。また、それらを全国曹洞宗

青年会のホームページ『般若』のボランティア情報に提供しました。

●曹青の理事・執行部を初めとする正会員やボランティア関係者でメーリングリストをたちあげ、活動に必要な情報をメールでにやりとりし、速やかな情報の伝達、共有を図りました。

※今月初旬に発行された全曹青の広報誌「そうせい」に、「山口県豪雨災害の発生からの流れ」と題して大野会長の報告とが掲載されました。

防府市ボランティア活動報告

九教区 梅岳寺徒弟 末武正憲

山口県曹洞宗青年会では七月下旬の防府市豪雨災害について、ボランティア活動並びに義捐金の募金を行いました。活動の詳しい内容は山口曹青ホームページで見ることができますので、ここでは私が実際に見聞きし、経験したことを紹介します。



この待ち時間を解消するため、直接現地へ行くのはどうかと聞いたところ、保険の問題があるので、連日参加している人でも毎日始めにボランティアセンターに来てその都度登録してくれとのことでした。面倒な手順を取つているのはそれなりの理由があるようです。

作業したお宅は、山のすそを通る道路に隣接して、1m程度低いところに

して、すぐ近くの別の場所で待機。ある程度の人数が集まつたところで、駐車場に移動。車で佐波川添いを北上すること十五分、現地の中学校に到着。そこで作業に必要と思しき農具を借りて、徒步でメールでにやりとりし、速やかな情報のスタッフの案内により作業現場へ…となつていました。

あるために土砂が庭先から縁の下まで
んべんなく堆積していました。目測で約
二十cm。炎天下に加えて汚物のような
匂いまでします。重機も使えず、これを
取り除くのにどれだけの時間要する
やら。やる前から気が滅入ります。それ
でもまだ頑張ろうと思えるのは、仲間が
いたからではないでしょうか。一人では投
げ出したくなるようなことも、ついつい頑
張ってしまいます。威人力ですね。

作業中、待機場所でよく言われた言
葉を思い出しました。

「頑張りすぎないで下さい」「一時間に一
度は休憩を取つて下さい」私には想像つ
きませんが、中には頑張りすぎて倒れた
人もいたそうです。

昼過ぎには庭の土砂は撤去できました。
ですが、縁の下にはまだ土砂が残つてお
り、一輪車に直に掬えた庭と違い、一旦、
てみに掬い、それを庭の一輪車に移しか
えなければなりません。てみに掬おうに
も、畳をあげた縁の下の作業は、畠を支
える柱が邪魔をして非常に難儀なもので
した。

作業中、お宅の方に頻繁に飲み物、食
べ物、塩まで勧めて頂きました。誰よりも
疲れているであろう方に気を遣わせてし
まつて、返つて申し訳なくなりました。
場所が違えば、お互い顔を合わすこと
もなかつたのですが、共に多くの人から
感謝されたことでしょう。それを考える
と青年会活動でボランティアをして良か
つたと思います。(しかし、何より嬉しかっ
たのはこの活動で体重が二kgも落ちたこ
とです)

◆徒弟研修◆

一教区 禅昌寺徒弟 町田大智



八月二十五日から八月二十七日の二
泊三日、開催地を沖縄として徒弟研修
が行われました。今年の五月に永平寺を
送行してから、初めての県外での活動と
なりました。

二十五日朝九時、福岡空港に集合し、
旅程の説明、自己紹介を済ませ一路沖
縄へと向かいました。

搭乗時間は一時間半ほどで沖縄に到
着し、まずは沖縄唯一の曹洞宗寺院・真
栄寺様に拝登させていただきました。ご
本尊様にご挨拶の法要を行い、なるべく
参加した子どもたちにいろいろな経験を
してもらおうと、木魚や鐘は子どもたち

いたいた後、真栄寺様より、手作りのソ
ーキそばを振る舞ついただき、エコについ
ても子どもたちに考えてもらう為に、自
分たちで持つてきた箸を使っておいしく
頂きました。

一息ついてから御詠歌練習、坐禅指導、
写経をしました。御詠歌などは、普段あ
まり練習したことのない子が、苦戦し
ながらも一生懸命お唱えしている姿は、
微笑ましくもありながら、見習わなけれ
ばと、教えられる部分がありました。写
経と御詠歌をご住職の健康を祈願して
奉納させていただき、子どもたちとお礼
の念を込め作務、法堂掃除をし、お暇す

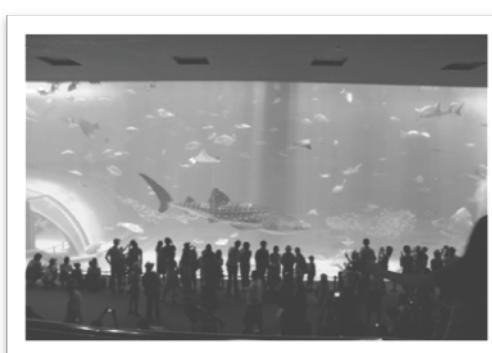
にたたいて
もらいまし
た。初めて
法要で鐘を
たたく子も
いたようで
す。

ご住職よ
り沖縄での
宗教が、ど
ういったも
のかという
お話をして

る前には珍しい様式の位牌堂も拝見させていただきました。

二日目は主に沖縄の地について知る日となりました。真栄寺のご住職のすすめで古宇利島の海へ。海がきれいだと海水があまりしょっぱくなく、ベタベタもしないそうです。

世界最大級の大水槽を設置する美ら海水族館にも行き、水族館内の人気を集めているジンベイザメなどを、子どもたちは目をまん丸に開き、楽しそうに見ていました。



名護・バイナップル園で中食をとり、嘉手納基地、首里城を見学し、国際通りの伝統工芸館で「紅型」を体験し二日目の旅程が終了です。

一日目は子どもたちも普段は見られないものをたくさん見られたためか、あちらこちらを元気に見て回っていました。

道中、バスの中からお墓がちらほらと



山口県慰靈塔前にて

見えるのですが、沖縄のお墓は今まで見てきたお墓とは形が違い、家屋の形や龜の甲羅の形のようなもので、大きなものが多く見られました。

三日目は戦没者の為の慰靈の法要を行ったため、沖縄戦跡国定公園へ行き、沖縄平和祈念像の前で慰靈の法要を行い、一人一人献花させていただきました。

戦時中、米軍、日本軍との死闘が繰り広げられた場所、摩文仁の丘に建てられた慰靈塔へも向かい、各県の戦死者の慰靈塔が並ぶなか、山口県慰靈塔前にてお経をあげ、参加者で落ち葉を拾い、安らかなご冥福をお祈りさせていただき、その後、平和の礎・平和の火も見させて

いただけました。

最後に琉球ガラス村で中食をいただき、帰路につきました。福岡空港で解散となり、二泊三日の沖縄での徒弟研修が終わりました。

月並みの表現かもしませんが、平和の火の前には、青い空、暑い空気、見慣れないきれいな樹木、水平線まで続く青い海がありました。こんな景色が戦時中は、空は煙で隠れ、大地は焦土と化し、海には埋め尽くさんばかりの艦隊があつたのかと考えると、戦争の物悲しさを感じます。

戦争はいけないことです。ですが、簡単にいけてないという言葉で済ませられないものが戦時中には確かにあつたのでしょうか

う。当時戦争に出兵していた人が「あの時私たちが日本を守らなければ、日本が日本でなくなってしまうと思った」と言つていました。教科書を開けば戦争の歴史が並ぶ中、知識でしか戦争を経験していない私たち若い世代は、今の日本はそんな人たちの多くの命の上に立つていて事を、忘れてしまいがちなのではないかと思えました。今回の研修で、子どもたちが争いとはどういうものか、考えるきっかけになつてもらえればと思いました。

徒弟研修で学ぶものは一般生活ではなかなか学べません、この夏が、参加した人たちに、かけがえのない経験であればと思えます。

【参加した子どもの感想文】

小学六年 荒木大心君

八月二十五日～二十七日まで、徒弟研修がありました。出発する前、すごくわくわくしていました。飛行機が、沖縄周辺にきたとき、海がみえました。その海はとても、きれいでした。沖縄空港について、そこにでると、ものすごく暑いので、「うえー」と思いました。真栄寺様について、はじめてのお経をすると、線香をもつ役をまかされました。その時僕は、「えつオレ?」と思いました。また、沖縄

そばを食べる時、飯台導師をつとめました。最初は、「そんなの絶対やだ!」と思つてましたが、しかたないと思い、やりました。ものすごくきんちょうしました。沖縄そばはめちゃくちゃおいしかつたです。お位はいをみたとき、「へーこんな形なんだ」と思いました。ホテルについたら、さつそくお父さんの二人で、大浴場に行きました。すごく、気持ちよかったです。ごほんも、おいしかつたです。



真栄寺本堂にて集合写真。お世話になりました。参加人数は大人18名、子ども11名でした。

カメラでとろうと思つたら、時間になつたので、とれませんでした。ざんねんです。美ら海水族館では、ジンベエザメや、マンタを見ました。「ワーオ」と思いました。また、おみやげコーナーでは、ミニチュアファイギュアなどをかいりました。パインツプル園では、昼ごはんを食べました。すごくおいしかつたです。正直、園内を回る、車みたいなやつにのりたかつたです。おみやげには、サーティーンダギーをかいりました。道のえき「かでな」では、かでなきちを、てんぼうしました。「オー」と思いました。おみやげには、琉球マブヤーのフイギニアをかいました。首里城では、いろんな建物の見物しました。「すげー」と思いました。びんがた体験では、けつこう集中しました。でも、できはあんまりよくありませんでした。ホテルにつくと、キートラブルがおこつて大変でした。レストランでステーキをたべました。とっても、おいしかつたです。カレースープは、カレーのルーとかわりませんでした。でも、おいしかつたです。そのあと、国際どおりに行つていろいろおみやげを、かいました。そのあと、ホテル内のお店で、おかあさんのたんじようびプレゼントをかいました。お父さんが、お金をだしていました。「優しいな。」と思いました。

三日目は、平和記念公園や、ひめゆりの

塔へ行きました。平和記念堂へ入って、大きな祈念像があつてびっくりしました。「ああ、

当時は、ばくだいなひがいだつたんだな。あ

あ、なんで、こんなことがおこったんだ。ああ、これから絶対こんなことのないよう」と思

いながら、参拝しました。山口県の戦没者のいれいひでは、「ああ、いろいろつらかつたでし

よう。安らかに、おねむりください。」と思い

ながら、参拝しました。戦没者の名前が、き

ざまれてあるのを見て、「ああ、なんというこ

と。ああ、絶対こういうことのないよう」と思

したい。」と思いました。姫ゆりの塔では、最

初に、亡くなった生徒さんたちの名前がき

ざまれている、いれいひがありました。それ

をみて、僕は、「ああ、かわいそうに、どうし

てこんなことが。」と思いました。中に入ると、

亡くなつた生徒の写真やいろいろなしりょう

がありました。それをみて、僕は、「まだこん

なに若いのに。なぜ、政府（当時）は、こんな

ことをおこしたんだ。にくたらしい。」と思いました。僕は、バスの中で、「なんという惨劇だつたんだ。こんなことがありえるのか。こんごは、絶対に絶対にこういうことがないようしたい。」と思いました。次に、琉球ガラス村で、昼ごはんを食べました。おいしかつたです。琉球ガラスのおみやげもかいました。そして、帰りました。平和の大切さがまなべて、

今年の研修の沖縄はとても行きたかった県だったので、楽しみにしていました。お母さんたちは、私たちが行く所は都会だよ。と言われていたけど、全然予想がつきませんでした。でも、沖縄に着いてバスで真栄寺まで移動する間に町を見ていたら、とっても都会なのでビックリしました。私は去年勉強で沖縄の竹富島を調べたので少し沖縄の事を知っていました。でも竹富島とはまったく見たらちがうので少しショックをうけています。もつと沖縄らしい民家などが見られるかと思つていきました。でも、沖縄の民家が一件でも見れたのでうれしかつたです。

よかったです。とつてもたのしかつたです。

小学6年 吉川摩利子さん

崎に行きました。そこで、平和学習をして平和に対しての気持ちがとても強くなりました。

今年の徒弟研修は、私にとつてとてもいい勉強になりました。来年は、中学なので部活などが多いそがしく参加できないと思うので今年が沖縄県で本当に良かったです。いい思い出になりました。

この他、ご紹介したい感想文はたくさんありました。紙面の都合上割愛させていただきましたが、後日宗務所報でも掲載されると伺っています。ありがとうございました。来年もまた参加してくださいね。

■墨蹟展参加協力

一教区 源久寺 清木玄栄

去る九月一日から七日迄、山口市井筒屋において墨蹟展（全国青少年教化協議会主催）が開催されました。

現代の仏教界を代表する各宗派管長、大本山貫主、布教師をはじめ、文化人、著名人の直筆の書や画が、掛け軸、額、色紙、短冊にて展示・頒布されました。

全青協は、いじめ、不登校、少年犯罪など、ますます多様化する青少年に関

真栄寺では、坐禅はもちろん梅花や写経などもしました。坐禅はなんとかやつた事はあるけど、写経と梅花は初めてだつたのでもずかしかつたです。

二日目は、楽しい一日でした。沖縄に來たら、絶対に行きたいスポットは海。すき通つていてとても美らでした。その後、色々な場所に行って勉強になつた首里城は、城に行くまでは中国の万里の長城みたいでした。

三日目は、六年生にとつて、とても良い勉強になりました。私は九月に修学旅行で長

する課題に対し、仏教や仏教者が果たす役割を常に考え、青少年はもとより、彼らとともに歩む青少年活動者を支援しております。墨蹟展はその活動の一環として、みほとけの教えが広がることを願い行わわれています。

青年会からも、微力ながら参加協力させていただき、数々の墨蹟にふれることができました。



長徳寺様（1教区）の辻説法。日替わりで他宗派の辻説法も行われました。

● SVAとの懇談会

副会長 池田亮一



この度の県内での豪雨災害復旧へ青年会員により迅速な活動が行われましたが、これからも国内外問わずの様々な問題に目を取り組んでいきたいです。

去る九月十七日にSVA（シャンティ国際ボランティア会）の方々との懇親会に青年会より大野泰生会長、野坂正道師と私とで参加させていただきました。SVAの会長はじめシャンティ山口や各

方面的諸老師方など、二十名ほどの参加で、SVAを立ち上げられました三教区原江寺の故有馬実成老師を偲びながら、これまでの活動の思い出話、現在の活動や熱い思いなど終始和やかな雰囲気の中、貴重なお話を聞くことができました。

これまでの青年会の活動の一環として主にクラフト販売、托鉢等でタイの山岳少数民族教育支援活動に関わってきましたが、今回改めて山口県がSVAの発祥の地であること、そしてこれまでの経緯や諸老師方の並ならぬ偉業を感じると同時に、今の我々青年僧に求められるものとは何かを考えさせられました。

檀信徒大会・心の大学講座のご案内

来る、十一月十日（火）『禅を聞く会（檀信徒大会）』が開催されます。左記の通り「心の大学講座」として、『祈祷と太鼓』と題して大般若を中心とした催しを計画しています。

全国に曹洞宗をお広めになつた瑩山禪師様は、大衆の苦しみを受け、「祈祷・葬儀」を取り入れられました。仏教のみならず、宗教全般に閉塞感のある現代、今一度檀信徒の皆さんと共に原点を考えてみたいとおもいます。お誘い合わせの上お越し下さい。



※ 詳細は別紙チラシをご覧ください。

続けておりますが今度も寄宿舎運営や施設整備等、経済的な問題を抱えている子どもたちの支援など諸老師方の意志を受け継ぎ繋いでまいりたいと思います。

県曹青ホームページのページ案内

昨年の徹通義介禅師様七百回、「遠忌」の記念事業として、山口曹青のホームページページを開設し、運営しています。

ホームページはヤフーなどの検索で「山口県曹洞宗青年会」と入力していただければトップに出てきます。

ホームページに関するご意見、要望などございましたら事務局までお願いします。
アドレス(<http://yamaguchi-sousei.org/>)



なお、現在では、ホームページがお寺の信頼を築く必須アイテムになりつつあります。県内の寺院紹介については隨時受

け付けています。お気軽にお問い合わせ下さい。

【今後の行事案内等】

中曹青岡山大会

十一月十六日(月)～十七日(火)

岡山プラザホテル

月例研修、徒弟研修『托鉢』

十一月六日(日) 下関市内

十一月二十三日(水) 周南市内

年末懇親会

十一月二十一日(月)

戒弟のつどい

平成二十二年一月四日(木)

一教区禅昌寺

寺庭婦人セミナー、涅槃会坐禅会

平成二十二年一月二十三日(火)

* 詳細の決まりましたものは改めてご案内させて頂きます。

「大寧寺開創六百年慶祝大法要 併修報恩大授戒会」

十一教区大寧寺さまが来年開創六百年を迎されます。記念事業として大法要・文化講演・授戒会等が厳修されます。

授戒会につきましては関係寺院を中心

に、一般にもひろく戒弟を募りたいとのこと。詳しくは大寧寺さまに直接お問い合わせ下さい。

期日:平成二十二年五月九日(日)
～五月十三日(木)

場所:大寧寺(0837-25-3469)

戒師は総持寺副貫首斎藤信義老師です。

今回は温泉授戒をされるとのこと。朝から夕まで大寧寺で修行し夜は温泉に宿泊するという、「信仰」と「癒し」の授戒です。なおテーマは「食」です。青年会も全面的に協力をする予定です。

●タイ山岳民族教育支援

募金クラフト販売状況●

七月三日 九教区護持会総会

クラフト 8,200円

今後ともご協力よろしくお願ひします。ご一報くださいれば会員がクラフトの販売に参ります。

問い合わせ先 山口県曹洞宗青年会事務局

大島郡周防大島町久賀二〇二九一一

久屋寺(六教区)

電話〇八二一〇一七二一一〇四一

ファックス〇八二一〇一七二一一〇一〇一〇